



「コロナウイルス」もようやく終息を迎えようとはしているのですが、感染の第2波・第3波の到来が懸念されるところです。それにしても世界では数十万人、日本だけでも1000人近くの方がお亡くなりになり、心を痛めずにはられません。心より哀悼の意を表します。

さて今回の「コロナ」問題では、改めて私たちの日常を見つめ直す機会にもなったのではないかと思います。政治や経済にまつわる問題点も浮き彫りとなりましたが、何よりも当たり前の日常が、当たり前ではなかったことの自覚が生まれたことは、私たちのこれからの人生に大きな課題が与えられたような気がしてまいります。

ところで今回のコロナ騒動の中、「断捨離」という言葉をよく耳にしました。仏教用語のようにも思えますが、どうやら「ヨガの思想」であるようです。聞き始めの頃は「不要なものを捨てる」ことぐらいに思っていたのですが、「ただ物を捨てるということだけではなくて、物との関係性を問い直すことで、住まいを片付けると同じように心も片付けていくということだ」と、作家やましたひでこ氏は説いておられます。我が家も先行きの事を考え少し「断捨離」に取り掛かることにいたしました。一つひとつの物と向き合い懐かしみながら、「思い出」を心に折りたたむように整理し、物との決別をしたことでした。

これはまた、私にとって「もったいない」との葛藤での「断捨離」でもありました。

人はなぜ生きるのか

T・S

「僕はね、ついにわかったよ。人はなぜ生きるのか。誰かを少しでも幸せにするためなんだ。社会を良くしたり、世界中の人びとを幸せにできたらそれに越したことはないけど。たった一人の人でもいいんだ。その人を少しでも幸せにするために人は生きるんだ。」

これは、ジャーナリスト北村肇さん(六十七歳)が亡くなる少し前に残した言葉です。仏教には「慈悲」という言葉があります。「慈」とはあらゆる人に平等に注がれる愛情であり、「悲」とは他人の悲しみを自らも悲しみ相手を深く理解することです。この二つの心が伴って誰かを救ったり幸せにしたりすることが出来ます。

仏教とは何かと問われれば、一人ひとりがそのような慈悲の人になって、より良い人間社会を作るための教え。私はこのことに尽きると思っています。しかし、私達は理屈でそのことが理解できたとしても行動にすることは難しいことです。何故なら、自分の「エゴ」が邪魔をして相手の気持ちや都合を優先することがなかなか出来ないからです。

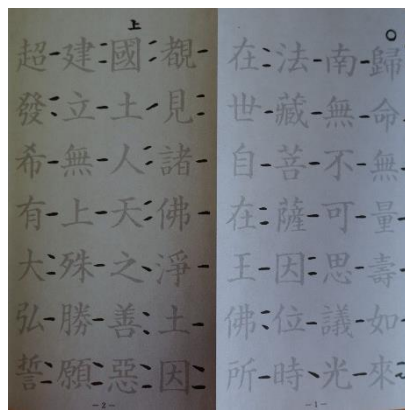
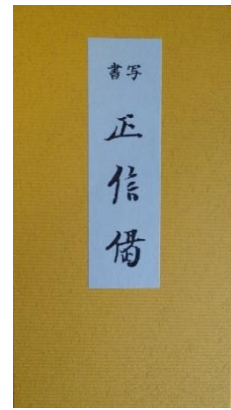
私も全くその通りです。

ですから、私達は常に自分の言動を顧みて反省をしなければなりません。その繰り返しの日々が自分の人生に価値を与えていくのだらうと思うのです。

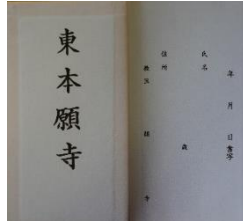
「たった一人の人でもいいんだ。その人を少しでも幸せにするために」本当に素敵な言葉です。微々たることもかもしれないけど、誰かのために自分の出来ることを心掛けていこう。そんなことを考えさせられた北村さんの言葉でした。

初盆会・盆勤めの申し込みはお早めにお問い合わせいたします。

正信偈の「書写」に挑戦してみませんか。



薄く印刷された文字を頼りに書写をします。書写が終わると、その証明が記録されます。私の本として大切にお使いください。



費用は一切いりませんが、『書写本』のみ1,500円が必要となります。墨と筆のみ(筆ペン可)ご用意ください。指導者もいませんが、机は用意しておきます。本年は10月、11月。来年は5月～の第2金曜日(午後 2時～3時半)第2金曜喫茶は休み

今月の掲示板

みだばはんがなんなん
 弥陀仏本願念仏
 じやけんがなんなん
 邪見憍慢愚衆生
 しんぎよつじゆじんなんなん
 信樂受持甚以難
 なんぢゆつしなんむかし
 難中之難無過斯

『正信偈』

私たちがお念仏を信じ、信心をいだいていこうは難の中の難でも難しいことである、とこのことですよ。

それではなぜそんなに難しいことであるのかと言えは、それは何を聞いても、何を考えても自我意識で見えて、聞いて考えるからです。自我意識で発想してしか私たちは聞くことができないものなのです。

聞いて分かった分らないは、自我意識のはたらいている領域のことで、分かった分らないといつても五十歩百歩の事になってしまふからなのです。

「おぼついたら信心をいだけぬのだらうか。その手掛かりの一つとして「妙好人」さんの生き方に触れてみるのも良いかもしれせん。(先月号 掲載 森光明さん)

今年 格別に美しく感じた花でした。



バレイリーナという品種ですが、咲き始めが遅く、6月末に見ごろを迎えました。門を入つてすぐ南に咲きました。

新「ナー」

十回連載

樹林

自然は無言で、ありのままの姿を見せてくれています。が、その姿を通して気づかされてくることも多いのではないかと思います。

自然散歩

2回目



食いちぎられたイネの葉。

近年、水田害虫としてジャンボタニシが注目されています。恐るべき繁殖力で田圃も水路もタニシで埋め尽くされてしまいました。南米から侵入したようです。通称「ジャンボタニシ」と言われますが田植え間もないイネの葉を食いちぎります。七月二十日ごろ食いちぎられたイネの葉が風に吹き寄せられて田圃のふちに固まっています(写真)。コンクリートの壁に卵を産み付けますが、天敵がいいため驚異的に繁殖し、不気味な存在になっています。

新聞原稿募集

身近な話題をお聞かせください。

7月の学習会

第2土曜(十一日) 7時より

七高僧 源信 ことば

八月の学習会はお休みです。